

「健康・公平・人権」健康格差対策の根拠を探る

この10年労働市場、所得、教育などさまざまな文脈で、社会格差についての関心が盛んになされてきました。健康や医療の分野においても社会格差との関係が改めて注目されています。健康格差については所得や居住地域による差異の様相が明らかになってきており、医療については地理的な格差、そして所得によるアクセスの差に関心がもたれるようになってきています。

こうした健康・医療と格差の問題は、1990年代後半から国際的に活発に実証、理論、規範というさまざまな角度から議論されてきました。本シンポジウムでは、特に健康・医療格差の対策を構築する土台の一つである規範的な立場に焦点をあて、健康権の理論的基礎を検討されている Jennifer Prah Ruger 氏、経済学をベースに学際的な健康・医療格差の検討を組織されてきた Adam Oliver 氏を交えて議論します。

日時 **2008年3月6日(木)**
10:00 ~ 17:00 (開場 9:30)

会場 **立命館大学衣笠キャンパス
恒心館 3F 730号教室**

会場までのアクセス：
http://www.ritsumeiji.ac.jp/campusmap/pdf/kinugasa_map.pdf
駐車スペースがございませんので、公共交通機関をご利用ください。

参加無料／事前申込要 (定員140名)

お名前・ご所属・ご連絡先(EメールかFAX)を明記の上、EメールかFAXにてお申込み下さい。定員に達し次第、受付を終了致します。

*ご記入頂きました個人情報は、本シンポジウムに関する事項以外には一切使用致しません。なお本情報につきましては、厳重に管理しシンポジウムが終了次第適切に処理します。

お申込先

立命館大学生存学研究センター 事務局
FAX: 075-465-8371 E-mail: ars-vive@st.ritsumeiji.ac.jp
(担当: 曾我・佐山)

主催

立命館大学人間科学研究所
立命館大学グローバルCOEプログラム「生存学」創成拠点
立命館大学生存学研究センター

本シンポジウムは、文部科学省オープン・リサーチ・センター整備事業「臨床人間科学の構築—対人援助のための人間環境研究」、文部科学省科学研究費補助金基盤(B)「格差社会における公平志向保健・医療政策に関する国際比較実証研究」(研究代表者: 松田亮三) および日本生活協同組合連合会医療部会からの奨学寄附研究の研究成果として広く社会に発信するものです。

当日は、日本語と英語による2ヶ国語同時通訳の実施を予定しております。

お問い合わせ先

■ 立命館大学生存学研究センター 事務局

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 TEL: 075-466-3335 FAX: 075-465-8371
E-mail: ars-vive@st.ritsumeiji.ac.jp URL: <http://www.arsvi.com/>

プログラム

(敬称略)

I 健康格差・正義・人権

司会: 松田 亮三 (立命館大学産業社会学部教授)

「健康権の理論的基礎」

報告者:

Jennifer Prah Ruger

(Associate Professor, Department of Epidemiology and Public Health, School of Medicine, Yale University)

コメンテーター:

後藤 玲子

(立命館大学大学院先端総合学術研究科教授)

※ Ruger 氏の報告は、Yale 大学からの中継にて行われます。

II 先進諸国における健康格差対策

司会: 棟居 徳子 (立命館大学人間科学研究所ポスドクトラルフェロー)

「健康格差対策のフレーミング：先進諸国の分析から」

報告者:

松田 亮三

(立命館大学産業社会学部教授)

コメンテーター:

高山 一夫

(京都橘大学文化政策学部現代マネジメント学科准教授)

III 健康・医療における格差：

英国における議論と政策展開から

司会: 山本 隆 (立命館大学産業社会学部教授)

「健康と医療における公平：英国における議論」

報告者:

Adam Oliver

(RCUK Senior Academic Fellow, London School of Economics and Political Science)

コメンテーター:

青木 郁夫

(阪南大学経済学部教授)